

新しい地域づくりの拠点として

新生「只見振興センター」開館

昨年6月から新築工事を行っていた只見振興センターが4月23日、ついに開館いたしました。

開館にともない当日はオープニングセレモニーを開催し、関係者や地域住民など約300名が訪れ、完成を祝いました。

今月号はこの完成した只見振興センターについてご紹介いたします。

◆開館までの背景

只見地区センター（現・只見振興センター）が設置されていた只見総合開発センターは、昭和46年に地域の拠点施設として建設されましたが、平成20年に実施した耐震診断により耐震性が低いことが判明し、費用対効果の面から補強ではなく解体することになりました。さらに、平成23年3月に発生した東日本大震災により建物にダメージを受け、同年5月に活動拠点を旧只見中学校へ移していました。

その後、いくつかの検討を

経て、多くの町民の要望により平成25年10月に、役場庁舎とは別築で新築することが決まり、決定後は「只見振興センター建設検討委員会」が発足。建設までに10回の協議を重ね意見を集約し、今回の完成に至りました。

◆施設の目的

只見振興センターは、住民と行政が協働する住みよい町づくりを目的に、地域の学びの場や地域づくりの拠点施設として整備されました。

◆町産材を建設資材に使用

建物の建設資材として町産材を有効活用するために、町

内の林業等に従事されている方々の組織する団体に伐採から一定の大きさへの製材（ラミナ材）を委託し、この町内産のラミナ材を貼りあわせた木材（集成材）を柱などに使用しております。

また内・外装材についても、町内産の杉材を用途にあった加工を施して使用しており、ユネスコエコパークの理念にそった、あたたかみのある木造施設としております。

◆オープニングセレモニー

開館当日に行われたオープニングセレモニーでは、菅家町長が「地域づくりの拠点と

▲テープカット後に開館した只見振興センター





▲キッチンのある1階交流スペース



▲(外観写真)只見総合開発センターと同じ場所に開館した只見振興センター



▲イベント時に広く使える1階学習室①



▲広々とした1階和室



▲集会室で行われた只見音楽研究会による新築記念公演会



《Voice》

只見振興センター建設
検討委員会
委員長 酒井正吉郎さん

施設の特徴は、材料から職人まで地元産であること。目に見えないところまで町産材を使っており、玄関には多目的スペースも設置した。様々な活用をしていただきたい。



《Voice》

只見地区地域づくり
委員会
会長 五十嵐辰男さん

地域づくりの拠点として多くの方に利用していただきたい。ウキウキわいわいフェスタなども新しいセンターで開催することになるので盛り上げていきたい。

《概要》

項目	内 容	
敷地面積	3,373.57㎡	
建築面積	本棟 792.01㎡	設備棟：70.38㎡
延床面積	本棟：999.55㎡	設備棟：70.38㎡
そ の 他	最高の高さ：11.7m	

《施設内容》

階	施設名	室面積 (㎡)	収容人員	備 考
1	事務室	52.09	9	応接用机 1台 応接椅子5脚
	和 室	68.34	72	座卓兼用テーブル2台 椅子12脚 座卓24台
	学習室①	68.29	45	テーブル15台 椅子 45脚
	集会室	191.10	210	テーブル49台 椅子210脚
	交流スペース	95.69	18	テーブル 4台 椅子 18脚
	舞 台	49.14	—	
2	学習室②	68.34	54	テーブル18台 椅子 54脚
	調理室	68.29	24	テーブル 4台 椅子 24脚
	図書コーナー	30.54	6	椅子6脚

— お問合せ先 —
只見振興センター
☎ 0241(82)2141

今後、只見振興センターは地域住民の学びの場や地域づくりの場、そして災害時の防災拠点としての活用が期待されます。

そして多くの方に活用してもらいたい」と挨拶し、齋藤議長が「ユネスコエコパークの理念に沿った施設が完成した」と祝辞を述べられました。そして、施設の完成に大きく貢献いただいた、「只見振興センター建設検討委員会」を代表して委員長の酒井正吉郎さんに、町長から感謝状が贈られました。その後只見音楽研究会による演奏とともにテーブルカットが行われ、オープンを彩りました。

セレモニー後、施設の内覧会や新築記念公演会、もちの振る舞いが行われ、多くの地域住民が集まり笑顔を見せていました。